

# 四半期報告書

(第27期第2四半期)

アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
3 【経営上の重要な契約等】 .....	6
第3 【提出会社の状況】 .....	7
1 【株式等の状況】 .....	7
2 【役員の状況】 .....	9
第4 【経理の状況】 .....	10
1 【四半期連結財務諸表】 .....	11
2 【その他】 .....	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	19

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2022年6月14日
【四半期会計期間】	第27期 第2四半期（自 2022年2月1日 至 2022年4月30日）
【会社名】	アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社
【英訳名】	I K K H o l d i n g s I n c .
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長CEO 金子 和斗志
【本店の所在の場所】	佐賀県伊万里市新天町722番地5  （上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	福岡県糟屋郡志免町片峰三丁目6番5号
【電話番号】	050-3539-1122
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 永島 和也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所  （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第2四半期 連結累計期間	第27期 第2四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自 2020年11月1日 至 2021年4月30日	自 2021年11月1日 至 2022年4月30日	自 2020年11月1日 至 2021年10月31日
売上高 (千円)	4,293,567	7,614,349	11,530,174
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△928,957	168,026	△610,797
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△) (千円)	△942,772	122,227	△411,226
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△935,390	140,326	△400,744
純資産額 (千円)	7,028,701	7,797,280	7,604,593
総資産額 (千円)	17,344,634	17,832,475	17,603,273
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期(当期)純損失金額(△) (円)	△32.22	4.15	△14.03
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	40.4	43.5	43.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,555,480	767,163	2,625,100
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△174,951	△377,131	△151,257
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△487,878	△330,887	△935,933
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,782,622	3,504,565	3,433,473

回次	第26期 第2四半期 連結会計期間	第27期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年2月1日 至 2021年4月30日	自 2022年2月1日 至 2022年4月30日
1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	△16.65	△1.97

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2【事業の内容】

当社は、2021年1月28日開催の定時株主総会決議に基づき、2021年11月1日を効力発生日として、当社の100%子会社であるアイ・ケイ・ケイ分割準備会社株式会社に対して婚礼事業を承継させる吸収分割を行い持株会社体制へ移行しました。

なお、持株会社体制移行に伴い、2021年11月1日付で当社の商号を「アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社」に、承継会社であるアイ・ケイ・ケイ分割準備会社株式会社を「アイ・ケイ・ケイ株式会社」に変更いたしました。

また、フォト事業及び結婚仲介事業に参入するため「Ambihone株式会社」及び「ララ・クール株式会社」をそれぞれ2021年11月1日付で設立いたしました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2021年11月1日から2022年4月30日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による感染者数の下げ止まりの傾向や変異株による感染再拡大の可能性のあるものの、国内の社会経済活動の規制緩和は徐々に進んでおります。また、ロシア・ウクライナを取り巻く地政学的、経済的リスクは世界規模で高まり続けており、国内外の経済に与える影響が懸念され、先行き不透明な状況が続いております。

ウェディング業界におきましては、社会経済活動の緩和に伴い集客イベント等が再開され挙式・披露宴の施行数は漸増傾向にあります。

このような状況の下、当社グループは、お客さまと社員の安全・安心を最優先事項と考え、「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」に基づき最大限の感染防止対策を徹底したうえで挙式・披露宴を実施してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,614百万円（前年同四半期比77.3%増）、営業損失は44百万円（前年同四半期は1,648百万円の営業損失）、経常利益は168百万円（同928百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は122百万円（同942百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① 婚礼事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会経済活動が緩和されているものの、感染防止対策を徹底したうえで挙式・披露宴を実施してまいりました。

その結果、売上高は7,317百万円（前年同四半期比82.8%増）、営業損失は34百万円（前年同四半期は1,667百万円の営業損失）となりました。

#### ② 介護事業

売上高は271百万円（前年同四半期比0.9%減）、営業利益は2百万円（同89.8%減）となりました。

#### ③ 食品事業

売上高は72百万円（前年同四半期比135.1%増）、営業利益は13百万円（前年同四半期は5百万円の営業損失）となりました。

#### ④ フォト事業

第1四半期連結会計期間（2021年11月）にフォト事業を展開する子会社を設立し、営業損失は11百万円となりました。

#### ⑤ 結婚仲介事業

第1四半期連結会計期間（2021年11月）に結婚仲介事業を展開する子会社を設立し、売上高は0百万円、営業損失は10百万円となりました。

#### (2) 財政状態の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べ229百万円増加し17,832百万円となりました。これは主に、売掛金が123百万円、投資その他の資産その他が119百万円それぞれ増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ36百万円増加し10,035百万円となりました。これは主に、買掛金が132百万円、流動負債その他が310百万円それぞれ増加し、長期借入金が377百万円、固定負債その他が42百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ192百万円増加し7,797百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益122百万円の計上及び自己株式の売却により50百万円増加したことによるものであります。以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント上昇し43.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ71百万円増加し3,504百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、767百万円（前年同四半期比50.7%減）となりました。主な収入要因は、税金等調整前四半期純利益160百万円、減価償却費504百万円、前受金の増加額296百万円であり、主な支出要因は、売上債権の増加額122百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、377百万円（前年同四半期比115.6%増）となりました。主な支出要因は、有形固定資産の取得による支出398百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、330百万円（前年同四半期比32.2%減）となりました。主な支出要因は、長期借入金の返済による支出467百万円であります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 施行、仕入、受注及び販売の実績

① 施行実績

当第2四半期連結累計期間における施行実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	
	施行数	前年同四半期比 (%)
婚礼事業	2,066組	167.0

(注) 新型コロナウイルス感染症による挙式・披露宴の延期が減少し、施行組数が増加しております。

② 仕入実績

当第2四半期連結累計期間における仕入実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	
	仕入高 (千円)	前年同四半期比 (%)
婚礼事業	1,470,369	176.0
食品事業	26,753	152.9

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 婚礼事業については、挙式・披露宴の延期が減少し、施行組数が増加したことから、仕入実績が増加しております。

3. 食品事業については、販売数が増加したことから、仕入実績が増加しております。

③ 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	
	受注数	前年同四半期比 (%)
婚礼事業	2,217組	138.6

(注) 新型コロナウイルス感染症の感染者数の減少により集客数が増加し、受注数が増加しております。



#### ④販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	
	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
婚礼事業	7,317,718	182.9
食品事業	24,618	141.6

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 婚礼事業については、挙式・披露宴の延期が減少し、施行組数が増加したことから、販売実績が増加しております。

3. 食品事業については、前連結会計年度から販売を開始しており、お歳暮等の販売数が増加したことから、販売実績が増加しております。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	96,000,000
計	96,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年6月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,956,800	29,956,800	東京証券取引所 (プライム市場)	単元株式数は100株で あります。
計	29,956,800	29,956,800	—	—

(注)当社は東京証券取引所市場第一部に上場しておりましたが、2022年4月4日付の東京証券取引所の市場区分の見直しに伴い、同日以降の上場金融商品取引所名は、東京証券取引所プライム市場となっております。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年2月1日～ 2022年4月30日	—	29,956,800	—	351,655	—	355,311

## (5) 【大株主の状況】

2022年4月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社エム・ケイ・パートナーズ	佐賀県伊万里市新天町466-11	9,986,000	33.39
金子 和斗志	佐賀県伊万里市	4,588,900	15.34
日本スタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2丁目11-3	1,924,700	6.43
アイ・ケイ・ケイ従業員持株会	福岡県糟屋郡志免町片峰3丁目6-5	1,116,300	3.73
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8-12	956,500	3.19
特定有価証券信託受託者 株式会社SMB C信託銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3-2	900,000	3.00
金子 晴美	佐賀県伊万里市	884,000	2.95
アイ・ケイ・ケイ取引先持株会	福岡県糟屋郡志免町片峰3丁目6-5	848,000	2.83
野村信託銀行株式会社（アイ・ケイ・ケイホールディングス従業員持株会専用信託口）	東京都千代田区大手町2丁目2-2	440,100	1.47
株式会社佐賀銀行	佐賀県佐賀市唐人2丁目7-20	304,000	1.01
計	—	21,948,500	73.39

## (6) 【議決権の状況】

### ① 【発行済株式】

2022年4月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 52,500	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 29,900,300	299,003	—
単元未満株式	普通株式 4,000	—	—
発行済株式総数	29,956,800	—	—
総株主の議決権	—	299,003	—

(注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」欄の株式数には、アイ・ケイ・ケイホールディングス従業員持株会専用信託が所有する当社株式440,100株 (議決権4,401個) が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の株式数には、当社所有の自己株式49株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

2022年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) アイ・ケイ・ケイホールデ ィングス株式会社	佐賀県伊万里市新天町 722番地5	52,500	—	52,500	0.18
計	—	52,500	—	52,500	0.18

(注) 上記には、アイ・ケイ・ケイホールディングス従業員持株会専用信託が所有する当社株式440,100株を含めておりません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年2月1日から2022年4月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年11月1日から2022年4月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

# 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,509,473	3,504,565
売掛金	323,156	446,932
商品	323,247	324,282
原材料及び貯蔵品	52,883	118,485
その他	238,926	343,750
貸倒引当金	△6,260	△8,785
流動資産合計	4,441,425	4,729,230
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,339,892	8,000,497
土地	1,850,919	1,850,919
その他（純額）	346,516	571,713
有形固定資産合計	10,537,328	10,423,130
無形固定資産	154,679	165,294
投資その他の資産		
差入保証金	1,597,311	1,522,465
その他	※1 872,527	※1 992,353
投資その他の資産合計	2,469,838	2,514,818
固定資産合計	13,161,847	13,103,244
資産合計	17,603,273	17,832,475
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	589,810	722,130
短期借入金	※2 2,100,000	※2 2,100,000
1年内返済予定の長期借入金	806,183	645,750
未払法人税等	67,166	63,917
賞与引当金	299,384	311,036
その他	2,116,363	2,427,357
流動負債合計	5,978,908	6,270,191
固定負債		
長期借入金	2,408,644	2,191,341
退職給付に係る負債	36,956	35,886
ポイント引当金	16,815	17,174
資産除去債務	1,038,800	1,044,194
その他	518,555	476,406
固定負債合計	4,019,771	3,765,003
負債合計	9,998,679	10,035,194

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	351,655	351,655
資本剰余金	351,731	350,032
利益剰余金	7,230,337	7,352,565
自己株式	△340,466	△290,031
株主資本合計	7,593,258	7,764,222
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	2,219
退職給付に係る調整累計額	17,472	14,710
為替換算調整勘定	△32,549	△15,495
その他の包括利益累計額合計	△15,076	1,434
非支配株主持分	26,411	31,623
純資産合計	7,604,593	7,797,280
負債純資産合計	17,603,273	17,832,475

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)
売上高	4,293,567	7,614,349
売上原価	2,004,290	3,194,683
売上総利益	2,289,276	4,419,665
販売費及び一般管理費	※ 3,937,991	※ 4,463,766
営業損失(△)	△1,648,714	△44,100
営業外収益		
受取利息	7,797	4,704
雇用調整助成金	687,302	199,492
その他	41,924	25,122
営業外収益合計	737,024	229,318
営業外費用		
支払利息	12,624	8,210
リース解約損	—	5,256
その他	4,642	3,726
営業外費用合計	17,267	17,192
経常利益又は経常損失(△)	△928,957	168,026
特別損失		
固定資産除却損	2,398	7,600
特別損失合計	2,398	7,600
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△931,355	160,426
法人税、住民税及び事業税	7,094	53,661
法人税等調整額	8,643	△13,588
法人税等合計	15,737	40,072
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△947,093	120,353
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,320	△1,874
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	△942,772	122,227



【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△947,093	120,353
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	2,219
退職給付に係る調整額	△2,248	△1,958
為替換算調整勘定	13,951	19,711
その他の包括利益合計	11,702	19,972
四半期包括利益	△935,390	140,326
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△932,454	139,522
非支配株主に係る四半期包括利益	△2,935	803

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△931,355	160,426
減価償却費	552,701	504,606
貸倒引当金の増減額(△は減少)	502	1,991
賞与引当金の増減額(△は減少)	190,745	11,614
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△554	△4,212
ポイント引当金の増減額(△は減少)	336	359
雇用調整助成金	△687,302	△199,492
固定資産除却損	2,398	7,600
受取利息	△7,797	△4,704
支払利息	12,624	8,210
リース解約損	—	5,256
売上債権の増減額(△は増加)	△65,156	△122,685
棚卸資産の増減額(△は増加)	△88,389	△66,622
仕入債務の増減額(△は減少)	264,548	130,718
未払金の増減額(△は減少)	△2,647	144,636
前受金の増減額(△は減少)	434,007	296,104
その他	327,510	△274,811
小計	2,171	598,994
利息の受取額	5,801	2,828
利息の支払額	△12,726	△8,205
雇用調整助成金の受取額	687,302	199,492
法人税等の還付額	877,124	—
法人税等の支払額	△4,192	△25,946
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,555,480	767,163
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△75,000	—
定期預金の払戻による収入	—	81,000
投資有価証券の取得による支出	—	△99,997
有形固定資産の取得による支出	△157,397	△398,914
無形固定資産の取得による支出	△25,643	△30,059
その他	83,089	70,839
投資活動によるキャッシュ・フロー	△174,951	△377,131
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	—
長期借入れによる収入	—	89,550
長期借入金の返済による支出	△516,381	△467,286
自己株式の売却による収入	45,900	43,013
配当金の支払額	△524	△573
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得に よる支出	△9,729	—
その他	△107,145	4,408
財務活動によるキャッシュ・フロー	△487,878	△330,887
現金及び現金同等物に係る換算差額	16,780	11,947
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	909,431	71,091
現金及び現金同等物の期首残高	1,873,191	3,433,473
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,782,622	※ 3,504,565

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。また、収益認識会計基準等の適用による損益に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産の減損及び繰延税金資産の回収可能性等の見積りを行うにあたり、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の拡大に関する仮定に重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年4月30日)
投資その他の資産	18,394千円	17,861千円

※2. 当座貸越契約

当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大とその不測の事態に対するその備えとして、機動的かつ安定的な資金を確保するため、取引銀行6行と貸越限度額9,500,000千円の当座貸越契約を締結しております。従来からの貸越契約を含めた借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年10月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年4月30日)
当座貸越限度額の総額	10,100,000千円	10,100,000千円
借入実行残高	2,100,000	2,100,000
差引額	8,000,000	8,000,000

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)
給料及び手当	1,296,243千円	1,479,953千円
賞与引当金繰入額	183,784	201,053
退職給付費用	21,913	23,094
貸倒引当金繰入額	861	2,566
ポイント引当金繰入額	523	516

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)
現金及び預金勘定	2,857,622千円	3,504,565千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△75,000	—
現金及び現金同等物	2,782,622	3,504,565

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年11月1日 至 2021年4月30日)

1. 配当金支払額

無配のため、該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)

1. 配当金支払額

無配のため、該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2020年11月1日至2021年4月30日)

当社グループの報告セグメントは、婚礼事業、介護事業及び食品事業であります。介護事業及び食品事業の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自2021年11月1日至2022年4月30日)

当社グループの報告セグメントは、婚礼事業、介護事業、食品事業、フォト事業及び結婚仲介事業であります。介護事業、食品事業、フォト事業及び結婚仲介事業の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自2021年11月1日至2022年4月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額	合計
	婚礼事業	介護事業	食品事業	フォト事業	結婚仲介事業		
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	—	57,310	—	—	63	—	57,373
一時点で移転される財又はサービス	7,317,928	214,638	72,190	—	—	△47,782	7,556,975
顧客との契約から生じる収益	7,317,928	271,948	72,190	—	63	△47,782	7,614,349
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
計	7,317,928	271,948	72,190	—	63	△47,782	7,614,349

(注) 「調整額」は、連結子会社間で生じた取引による売上高消去であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自2020年11月1日 至2021年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年11月1日 至2022年4月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△)	△32円22銭	4円15銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△942,772	122,227
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△942,772	122,227
普通株式の期中平均株式数(株)	29,260,101	29,418,478

(注) 1. アイ・ケイ・ケイホールディングス従業員持株会専用信託が所有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式を含めております。(前第2四半期連結累計期間618,203株、当第2四半期連結累計期間474,627株)

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年6月13日

アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

福岡事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 永 里 剛

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 飛 田 貴 史

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社の2021年11月1日から2022年10月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年2月1日から2022年4月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年11月1日から2022年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年4月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	2022年6月14日
【会社名】	アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社
【英訳名】	I K K H o l d i n g s I n c .
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長CEO 金子 和斗志
【最高財務責任者の役職氏名】	経営管理部長 永島 和也
【本店の所在の場所】	佐賀県伊万里市新天町722番地5 (上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。) 福岡県糟屋郡志免町片峰三丁目6番5号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長兼社長CEO金子和斗志及び最高財務責任者経営管理部長永島和也は、当社の第27期第2四半期（自2022年2月1日至2022年4月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。